



2015 年 7 月 31 日

アウディ ジャパン株式会社
プレス問い合わせ 03 - 5475 - 6309
<http://www.audi-press.info/>

お客様問い合わせ 0120 - 598 - 106
アウディコミュニケーション センター

アウディが米国のサーキットで自動運転の実演を公開

- ・ 新世代の Audi RS 7 自動運転コンセプトカーで、全開走行

今日、アウディにおいて自動運転（パイロットド ドライブ）の技術は、急速なピッチで実用化に近づいています。今月、世界でもっともチャレンジングなサーキットのひとつといわれる米国カリフォルニアのソノマ レースウェイで、最新世代の Audi RS 7 自動運転コンセプトカーは、プロドライバーに匹敵するパフォーマンスを披露しました。

アウディは、次世代の Audi A8 において、自動運転の実用化を計画しています。「ソノマにおいてわれわれは、Audi RS 7 自動運転コンセプトカーを何ラップにもわたって物理的限界まで追い込みました。それでもクルマは、一貫した正確さで課題を成し遂げたのです」と、アウディでブレーキ、ステアリング、ドライバーアシスタンスシステムの開発責任者を務めるトマス ミューラーは述べています。テスト車は、プロドライバーに匹敵する正確で効率的な運転スキルで、一周 4,050 メートルのサーキットを、2 分 01 秒 01 のタイムで周回しました。

近年アウディは、徐々に厳しい条件下で自動運転の実験を行ってきました。2014 年 10 月には「ロビィ」というニックネームで呼ばれた RS 7 ベースの実験車が、ホッケンハイム サーキットを、ドライバーなしに最高 240km/h の速度で駆け抜けています。それに対し、「ロビィ」というニックネームが付けられた今回のテスト車は、412kW (560hp) のパワーを発生し、重量は前のモデルより約 400kg も軽くなりました。ブレーキングであれ、ステアリング操作であれ、加速であれ、「ロビィ」は、すべての運転操作を、完全に自律的かつ最高の精度でコントロールします。

アウディはまた、自動運転の実験を、過酷な実際の道路交通環境でも行っています。2015 年の初めに、「ジャック」と命名された、生産モデルに近い Audi A7 の自動運転コンセプトカーが、シリコンバレーからコンシューマーエレクトリックショー（CES）が開催されるラスベガスまで、一般のハイウェイなどを通して自動運転で移動してみせました。そのすぐ後には、同じクルマが、ドイツのアウトバーン上で 130km/h までの速度で自動運転を行っています。2015 年 5 月に開催された CES アジアでは、巨大都市上海の市街地で、ジャーナリストが自動運転を経験する機会が与えられました。

多種多様な実験路での走行を含めた開発作業により、センサーテクノロジーからデータ処理、車両制御／安定化のための技術に至るまで、自動運転の技術を生産モデルに適用する上で、価値ある知識やノウハウが蓄えられつつあります。自動運転のテクノロジーは、より安全で、時間の無駄がなく、効率的で便利なモビリティを実現するためのものです。自動運転のシステムが完成すれば、とりわけドライバーが運転を負担に感じる場合や、逆に単調に感じる場合などに、自動車の安全性が向上することになります。さらにこうしたシステムにより、ドライバーは移動中の時間をより自由に活用できるようになります。システムが一時的に運転の責務を担う場合には、状況を予測するテクノロジーが、運転をより効率的かつ快適にして、乗員のストレスを減らす役割を果たします。アウディの自動運転は、ラグジュアリークラスのセダン、Audi A8 の次世代モデルにおいて実用化が図られる予定です。次世代の Audi A8 に採用される自動運転のシステムは、駐車時の操作や、フリーウェイなどにおける 60km/h 以下での加減速、停止、再発進などの操作を、ドライバーに代わって引き受けることになるでしょう。

*本リリースは、アウディ本社配信リリースの翻訳版です。

ソノマにおける「ロビィ」の走行シーン（動画）は、こちらからご覧いただけます。

<https://youtu.be/Lb1EfV0EH7A>